

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社 すえ広企画		
事業所名	グループホーム じーちゃん・ぼーちゃんのお家		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370301016&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者側に立って、考える事をモットーとし、ホームでの生活が本人にとって居心地が良く、生き生きと生活して行けるよう、スタッフが全員同じ考えでケアする事を目指している。ホームがある場所は、鶴山公園の備中楼や夏の花火が良く見える所にあり、庭での食事をしながら、景色が楽しめる。又、隣には畑があり、野菜の収穫も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・鶴山城をまじかに望め、津山駅に近い市街地で、生活・交通にも至便なロケーションであり、背後に神南備山を控え、敷地に隣接して広い菜園もあり、自然に囲まれた2ユニットである。
- ・中心部の脳外科専門医と提携し、認知症の相談には専門的指導がある。緊急時には直ちに対応が可能で、入居者は安心して過ごせる。看取り指針を設け最後までケアをしている。
- ・ホームは『笑顔がいっぱい私のお家』を目標に、職員・入居者とも柔和で明るく、家庭的であり清潔な雰囲気がある。フェンスも低く解放的で地域との関係も良好である。
- ・入居費用を比較的低廉に設定し、経済的負担を軽減して誰でも入居しやすくしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引き継ぎの前に当ホームの理念「あきらめを希望に変える様に支援致します」を声を出し唱え、入居者の方達が自信を持つにはどの様にしたら良いか常に研究し努力している。	「あきらめ」を「希望」にの理念を事務所に掲げ、共有と実践に向かって努力している。個人を大切に自由な普通の家庭生活実現に社長始め、職員一同頑張っている。	理念に地域密着の趣旨を加味し、さらに積極的に地域交流を進め、地域に必要な社会資源・地域福祉拠点となつて行くことを願っております。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、防災訓練等に参加したりしている。近所の人が散歩の途中に声かけをしてくれたり、又、家では不要になったものですがと、届けて下さったりと交流が広がっている。	小学校の運動会や地域の防災訓練に参加し町内の秋祭りや清掃作業に出ている。近所から野菜等のおすそ分けがあり、手品や踊り等、中学生のボランティアも来ており、地域とホームとの付き合いの輪が広がっている。	公民館など地域の社会資源マップ等を作り、それらをもっと活用してホーム生活をより豊かで充実したものにしてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー実習の受け入れや医療関係者の見学、地域の方の見学等を通し、ホームでの工夫や対応の仕方等に対し質問があった時に話をして活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者に関する活動内容報告並びに職員に関する活動内容の報告を行い家族、市、職員と共に話し合いながらサービスの向上に努めている。	推進会議には、地域の教育・防災等の関係者、家族・本人や市職員が参加、派出所の警官にも呼びかけて、ホームの理解と協力をお願いする努力をしている。	近隣の地域関係者の積極的な参加を呼びかけてはいるが、さらに、これからも地域との連携をより深め、ホームの後ろ盾となる会議に発展することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、社協、生保、市との連携を持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	社協の研修会に参加、生活保護も受け入れており、包括より入居の話が回ってくる。市へは直接足を運び、そのとき、関係各課と話し合い連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が会議の中で、話し合いを持ち、禁止事項を事務所に貼り、身体拘束をしない・ならないような工夫を常に考え、取り組んでいる。	運営規定・重要事項説明書に身体拘束排除を規定し、マニュアルもある。外部研修に積極的に参加、勉強会に報告している。虐待記事を申し送りノートにスクラップし、事務室内に排除内容を掲示し実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者、職員は高齢者虐待防止法を学び事業所内での虐待がない様注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び、成年後見制度について学び、活用できるよう支援しているが、今現在は利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は入居者や家族等の不安や疑問等を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をとうし、家族、管理者、地域の方、市職員等の出席により意見、要望等を受けたものを運営に反映させている。	家族会で年1回大掃除に参加する等家族との連携を強化。意見箱も設置して積極的に家族・利用者の意見・希望を聞き、ホーム運営に反映している。もっと散歩をと言う家族の要望を月間目標に取り入れ実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会議及びミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。会議録には、全員が周知した型として印を押している。	毎月定例の職員会議で入居者の意見等を社長・施設長に伝え、内容を全職員に回覧し確認印を取っている。管理担当マニュアルを設け、備品・園芸・食品・生活・防災等の担当を決めて職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の努力、実績、勤務状況の把握、及び各自が向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保は行っており、社内研修により、技術の取得。テストによるレベルアップを図ってる。技術の習得及び資料を配布し勉強して頂く。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他のホームと交流する機会を作り勉強会や、相互訪問の活動、サービスの質の向上に積極的に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し安心して過ごして頂けるよう毎日の申し送りで伝えて行き良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、できるだけいつでも相談に乗れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、相談の上随時、サービスの変更ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物の同行、散歩、食事の下準備、洗濯物干し、後片付け、手すり・ソファ拭き等、出来る事は職員といつも一緒に行うよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭への電話の要望、体調不良、面会等、家族・本人の絆を大切に支えていく関係を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	はがき、手紙、電話、面会等で馴染みの人や、馴染みの場所の情報を伝える事により、関係が保たれるよう支援をしている。	実家の近所の人・友達等と面会者が有り、電話も頻繁に掛かって来ている。お盆や彼岸には家族が墓参りに連れて行く等、なじみの関係継続の支援は着実に推進されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話、レクリエーション等を通して孤立しないよう、声かけをしたり、ミーティング、申し送り等で、話し合い個人個人を大切に支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された本人・家族に対し連絡を取ったり、訪問や支援事業所より現状を聞いたり、つねに気にかけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話をする機会をできるだけ作り、今の思いとどんな暮らしを望んでいるか、会話を楽しみながら把握に努めている。困難な場合は、できるだけ希望に従っていけるよう全体で検討する。	入居者個々の思いや希望等を、日常の会話を中心とする細かなアセスメントを進めて把握するようにしている。自己意思表出の難しい入居者の気持ちは、総合的に検討し把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等について家族の情報や支援事業所等からの情報の把握をするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力の現状を毎日の生活を通し、スタッフ間で情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア日誌を2種類使用し、その方に合った日誌はどちらかをミーティングで話し合い、より細やかな現状を拾えるよう、又、計画を立てる上で役立つかを決めて、使用している。	入居時は事前面接を行ない1ヶ月の暫定プランを立てる。1回/月のミーティングでモニタリングし、ケア会議後6ヶ月のケアプランを立てている。アセスメントは入居者個々の担当者により実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人・家族・職員と話し合いながら意見、アイデアを生かし個人に即した方法や本人の気持ちを第一に考えた介護計画を作成するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況及びその時々生まれるニーズに対応できるよう、余裕のあるスタッフの人数と、サービスの多機能化を考え工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている祭りに参加したり、ボランティアの来所を通し本人の力を発揮でき安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の要望を大切にし納得が得られたかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう同行したり、手紙をそえたりして支援している。	かかりつけ医については、本人・家族の希望・意向を把握し、付き添って行ったり、バイタル資料を提供する等受診支援を行っている。訪問歯科が週1回来訪して加療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は密に連携を取り利用者が適切な受診を、往診看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換及び相談に努め病院の入院、退院時には添書の交換を行っている。又、退院にあたっては、病院に行きホームでの生活がスムーズに出来るよう情報を貰って来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族と十分な話し合いを何度も持ちながらホームでの看取りとなるか、出来る事出来ない事を話し合いながらその都度取り組んで行き支援している	看取り指針に基づき、ホームで見取りが可能かよく本人・家族と話し合い、具体的に看取り支援を確認して、同意書を取り交わしている。看取りの経験もあり、看護師がケアマネで重度化しても直ぐ対応しており、家族・職員も安心してケアに当ることが出来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は応急手当及び初期対応の練習を消防署にて受けている。又、マニュアルを作成し、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は実際に公民館まで行き、全員が避難できるように訓練を行った。地域の方々に参加して頂き避難訓練を行う。また、地域での防災訓練にも、参加している。	非常災害マニュアルを備え、防災管理責任者を置き年2回訓練をし、町内に参加案内をしている。公民館での町内火災訓練に参加し、救急法の実習も習った。缶詰等非常食も備蓄し、スクリンプラーも設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に努力している。月間目標などを作り、スタッフが気にかけて実行している。	個人情報保護に関する月間目標を作り、その達成に常時努力している。施設長は常に入居者を自分の立場に置き換えて、ケアに努める事を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動でもできるだけ付き添えるよう「外に出たい」「庭に出たい」という気持ちを尊重し、本人の気持ちを大事に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床が遅くなる方に対しては起床した時に朝食となるように配慮している。入浴の時間も順番に関係なく快く応じられた方からになったり、朝からの時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容院の訪問等があり、その人に合ったその人らしいおしゃれな身だしなみを楽しんで頂けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人一人の好みを尋ねそれを活かして楽しんで頂く。又、利用者と共に職員と一緒に食事の下準備、後片付け等行なっている。誕生日会、行事等は入居者に希望を聞き、献立を作成している。	献立は個人の嗜好・体調・咀嚼能力に応じ、旬の食材を使っている。水分をしっかり取り、嚥下のため3食とも味噌汁を付けており、あら刻み・極小刻み食もあった。準備や片付け、味付けも楽しそうに手伝っていた。	自家菜園の旬の野菜を入居者自ら採取もしており、自立への証として評価したい。食事前の「パンダのタカラモノ」と数回唱和することは口腔体操としてもすばらしい試みである。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量を記録し一日の状態を把握している。9時頃には緑茶、10時には、オーダーで飲み物、15時には、お茶とお菓子等で対応し、出来るだけ全員が1000cc以上になる様に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診も要望に応じ受診している。又、毎食後の口腔ケアに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況により、紙パンツになった方も、また、布パンツにもどれるよう、スタッフが細やかな情報のやり取りをしながら自立にむけた支援をしている。	布パンツ2名、終日オシメ1名、夜のみオシメ2名、布パンツ+パッドの人もある。個々の入居者に応じて職員が細やかに配慮して、排泄自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、朝起床時のコップ一杯の冷牛乳、及び水分摂取、運動に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間を気にする事がない様できるだけ声かけをしたり、一度ことわられたときも、又時間を置いて声かけをする事で楽しめるよう支援をしている。	午後入浴だが、時間や順番に本人の希望をなるべく取り入れるようにしている。声掛けのタイミングが難しいが、本人のペースに合わせるようにしている。。同姓介助であり、入浴拒否の人には時間を置いて声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて、眠れない方に対しては夜勤のスタッフと会話をしたり、暖かい飲み物を一緒に飲みながら、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診をする都度、薬が変更になる方や錠剤の飲み込みが難しくなっている方に対して、薬局と相談したり、Driに伝え粉末状にしてみよう事で薬を飲めるようスタッフ間で情報を共有して支援をしてる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会、慰問、レクリエーション等での気分転換の支援に努めている。役割、分担表等を作り、いつも同じ仕事が自分の仕事となるように支援してる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	症状の安定を図りながら、できるだけ戸外で過ごせるよう努める。園児が公園に来た時は、一緒に触れ合えるよう出かけて行く事もある。	花見や敬老会へは家族も一緒に出かけ、ホームセンターに買い物に出かけることもある。ホームの前の公園に保育園児の姿が見えると、皆さん楽しそうに足を運んでいる。津山の花火大会や、秋の紅葉見学に行くこともあり、外出支援は日常的に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先では本人の希望での使用、又買い物同行にて、援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所の電話を利用できるようにしてかけたい時に支援している。手紙、はがきは物品の支援等や届いた物を本人へ渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、四季四季に応じた飾り付けを行い居心地良く過ごして頂けるよう工夫を凝らしている。天窓から雲の流れ、中庭から雨や雪の様子が見られ刺激になって会話がはずんでいる。	共有空間には加湿器があり天窓は定期的に開閉し採光と換気も兼ね、中庭から周囲の自然の移り変わりが感じられる。居間のソファーにはひざ掛けやクッションが置かれ、畳コーナーも有り、居心地は良く、自由に思うところで寛ぐことが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになったり、気の合った利用者同士で過ごせるようソファ、リビング、居室での工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、好みの物を持参して頂き居心地よく過ごせるよう工夫している。	クローゼット・整理タンス・エアコンが備え付けられ、ナースコールもある。使い慣れた筆筒や鏡、家族の写真等思い出深い物が持ち込まれたり、中にはシンプルな雰囲気のある部屋もあり個性的な安らぎがある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している	トイレの場所等をわかりやすくしたり、居室に名前を書いたり、目じるしがあったり、自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社 すえ広企画		
事業所名	グループホーム じーちゃん・ぼーちゃんのお家		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370301016&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年12月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引き継ぎの前に当ホームの理念「あきらめを希望に変える様に支援致します」を声を出し唱え、入居者の方達が自信を持つにはどの様にしたら良いか常に研究し努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、防災訓練等に参加したりしている。近所の方が散歩の途中に声かけをしてくれたり、又、家では不要になったものですがと、届けて下さったりと交流が広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー実習の受け入れや医療関係者の見学、地域の方の見学等を通し、ホームでの工夫や対応の仕方等に対し質問があった時に話をして活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者に関する活動内容報告並びに職員に関する活動内容の報告を行い家族、市、職員と共に話し合いながらサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、社協、生保、市との連携を持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が会議の中で、話し合いを持ち、禁止事項を事務所に貼り、身体拘束をしない・ならないような工夫を常に考え、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者、職員は高齢者虐待防止法を学び事業所内での虐待がない様注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び、成年後見制度について学び、活用できるよう支援しているが、今現在は利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は入居者や家族等の不安や疑問等を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をとうし、家族、管理者、地域の方、市職員等の出席により意見、要望等を受けたものを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会議及びミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。会議録には、全員が周知した型として印を押している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の努力、実績、勤務状況の把握、及び各自が向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保は行っており、社内研修により、技術の取得。テストによるレベルアップを図ってる。技術の習得及び資料を配布し勉強して頂く。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他のホームと交流する機会を作り勉強会や、相互訪問の活動、サービスの質の向上に積極的に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し安心して過ごして頂けるよう毎日の申し送りで伝えて行き良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、できるだけいつでも相談に乗れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、相談の上随時、サービスの変更ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物の同行、散歩、食事の下準備、洗濯物干し、後片付け、手すり・ソファ拭き等、出来る事は職員といつも一緒に行うよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭への電話の要望、体調不良、面会等、家族・本人の絆を大切に支えていく関係を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	はがき、手紙、電話、面会等で馴染みの人や、馴染みの場所の情報を伝える事により、関係が保たれるよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話、レクリエーション等を通して孤立しないよう、声かけをしたり、ミーティング、申し送り等で、話し合い個人個人を大切にした支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された本人・家族に対し連絡を取ったり、訪問や支援事業所より現状を聞いたり、つねに気にかけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的に話をする機会をできるだけ作り、今の思いとどんな暮らしを望んでいるか、会話を楽しみながら把握に努めている。困難な場合は、できるだけ希望に従っていけるよう全体で検討する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等について家族の情報や支援事業所等からの情報の把握をするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力の現状を毎日の生活を通し、スタッフ間で情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア日誌を2種類使用し、その方に合った日誌はどちらかをミーティングで話し合い、より細やかな現状を拾えるよう、又、計画を立てる上で役立つかを決めて、使用している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人・家族・職員と話し合いながら意見、アイデアを生かし個人に即した方法や本人の気持ちを第一に考えた介護計画を作成するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況及びその時々生まれるニーズに対応できるよう、余裕のあるスタッフの人数と、サービスの多機能化を考え工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている祭りに参加したり、ボランティアの来所を通し本人の力を発揮でき安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の要望を大切にし納得が得られたかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう同行したり、手紙をそえたりして支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は密に連携を取り利用者が適切な受診を、往診看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換及び相談に努め病院の入院、退院時には添書の交換を行っている。又、退院にあたっては、病院に行きホームでの生活がスムーズに出来るよう情報を貰って来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族と十分な話し合いを何度も持ちながらホームでの看取りとなるか、出来る事出来ない事を話し合いながらその都度取り組んで行き支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は応急手当及び初期対応の練習を消防署にて受けている。又、マニュアルを作成し、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は実際に公民館まで行き、全員が避難できるように訓練を行った。地域の方々に参加して頂き避難訓練を行う。また、地域での防災訓練にも、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損なわないよう言葉かけや対応に努力している。月間目標などを作り、スタッフが気かけ実行している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動でもできるだけ付き添えるよう「外に出たい」「庭に出たい」という気持ちを尊重し、本人の気持ちを大事に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床が遅くなる方に対しては起床した時に朝食となるように配慮している。入浴の時間も順番に関係なく快く応じられた方からになったり、朝からの時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容院の訪問等があり、その人に合ったその人らしいおしゃれな身だしなみを楽しんで頂けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人一人の好みを尋ねそれを活かして楽しんで頂く。又、利用者と共に職員と一緒に食事の下準備、後片付け等行なっている。誕生日会、行事等は入居者に希望を聞き、献立を作成している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量を記録し一日の状態を把握している。9時頃には緑茶、10時には、オーダーで飲み物、15時には、お茶とお菓子等で対応し、出来るだけ全員が1000cc以上になる様に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診も要望に応じ受診している。又、毎食後の口腔ケアに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況により、紙パンツになった方も、また、布パンツにもどれるよう、スタッフが細やかな情報のやり取りをしながら自立にむけた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、朝起床時のコップ一杯の冷牛乳、及び水分摂取、運動に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間を気にする事がない様できるだけ声かけをしたり、一度ことわられたときも、又時間を置いて声かけをする事で楽しめるよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じ、眠れない方に対しては夜勤のスタッフと会話をしたり、暖かい飲み物を一緒に飲みながら、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診をする都度、薬が変更になる方や錠剤の飲み込みが難しくなっている方に対して、薬局と相談したり、Driに伝え粉末状にしてもらう事で薬を飲めるようスタッフ間で情報を共有して支援をしてる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会、慰問、レクリエーション等での気分転換の支援に努めている。役割、分担表等を作り、いつも同じ仕事が自分の仕事となるように支援してる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	症状の安定を図りながら、できるだけ戸外で過ごせるよう努める。園児が公園に来た時は、一緒に触れ合えるよう出かけて行く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先では本人の希望での使用、又買い物同行にて、援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所の電話を利用できるようにしてかけたい時に支援している。手紙、はがきは物品の支援等や届いた物を本人へ渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、四季四季に応じた飾り付けを行い居心地良く過ごして頂けるよう工夫を凝らしている。天窓から雲の流れ、中庭から雨や雪の様子が見られ刺激になって会話がはずんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになったり、気の合った利用者同士で過ごせるようソファ、リビング、居室での工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、好みの物を持参して頂き居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等をわかりやすくしたり、居室に名前を書いたり、目じるしがあったり、自立した生活が送れるよう工夫している。		